

## (2. リサーチノート)

### 2-1. オタクが抱くメタステレオタイプについて

——インタビュー調査による探索的検討——

田島 綾乃

#### 1 問題

現代社会において、オタク<sup>1)</sup>と呼ばれるアニメ・マンガ・ゲーム等を深く愛好する人々の存在は、今やあらゆる場所、メディアで目にするようになった。コミックマーケットと称する同人誌即売会やオタク向けのイベント、音楽ライブ、2.5次元舞台などの規模は年々拡大しつつあり、その潮流はクールジャパンとして海外にも広く受け入れられている。

しかし、従来からオタクたちは人々からネガティブなステレオタイプを向けられてきた。彼、彼女らは十数年前まで、社会不適応者、犯罪者予備軍と言われ、差別的な見方をされてきた。またそれだけではなく、根暗、コミュニケーションが苦手などの性格、服装や容姿に至るまで、ネガティブなステレオタイプを植え付けられてきた。そのような状況において、オタクはどのようにネガティブなステレオタイプを捉え、向き合ってきたのだろうか。

そこで本稿は、オタクはオタクではない人々からどのように思われていると考えているのか、そしてそれらをどのように捉えているのかについて、探索的に検討することを目的とする。

#### 1.1 オタクへのステレオタイプ

人々がオタクに対して抱いている「根暗」や「コミュニケーションが苦手」といったネガティブなステレオタイプは、これまでにオタクステレオタイプとして研究されてきた（菊池 2000, 2009; 大角・大江 2018; 高田・菊池・尹 2020）。宮崎勤による事件を契機として、オタクたちは先述したようなネガティブなステレオタイプを人々によって抱かれてきた過去がある。世代交代や、オタク文化の発展により人々のオタク文化に対する理解は深まってきた。しかし、それらの理解は文化のみに向けられたものであるという指摘（宮台 2014）のように、現在もなお、一部のオタクへのネガティブなステレオタイプは抱かれたままである（高田・菊池・尹 2020）。

オタクへのステレオタイプは、菊池（2000, 2009）が行った大学生を対象としたアンケートによれば、ネガティブなものだと「暗くて部屋の中に引きこもっている」「一つのことと異常なほどのめりこんでいる」「ネクラで粘着質」「自分の趣味にハマりこむことで、周囲が見えな

1) オタクには「おたく」「ヲタク」などと様々な呼び名が存在するが、本稿では特に意味付けを行わず、オタクに統一する。

くなり、コミュニケーションスキルが低下した人物」「身だしなみに気を遣わない人が多い」「一般常識に欠ける」などが挙げられている。また、ポジティブなものだと「何か一つに熱中でき、それを継続できる」「専門的なことをよく知っている」「探究心がすごい」などが挙げられている。ポジティブなステレオタイプは知識や能力についての評価であるが、対するネガティブなステレオタイプは人格や見た目について言及されており、より強烈であることが分かる。

ステレオタイプとは、特定の社会集団に対して抱かれる集約的イメージのことを指す (Lippman 1922)。ステレオタイプで否定的なものは偏見と呼ばれる (北村・唐沢 2019)。偏見の存在によって、例えばある人が罪を犯し、オタク趣味を持っていることが判明した場合、オタクであることが犯罪を起こした要因であると誤って帰属されることや、不当な扱いを受ける可能性がある。また、ステレオタイプはステレオタイプを向けられる人々にも影響を与える。ネガティブなステレオタイプによって、自分たちがステレオタイプに関連付けて否定的に判断されるかもしれない、といったステレオタイプ脅威を抱くことがある (上瀬 2002)。オタクたちはステレオタイプをどのように捉えているのだろうか。

## 1.2 オタクたちが持つメタステレオタイプ

オタクたちはオタクではない人々、つまり外集団から、例えば「根暗」「コミュニケーションが苦手」と思われているだろう、と考えている。このように外集団から内集団に対して抱かれているイメージの認知を、メタステレオタイプという (Vorauer & O'Connell 1998)。Vorauer (1998) らによれば、メタステレオタイプはよりネガティブなイメージに偏りやすく、内集団の地位が低いと、メタステレオタイプはより顕著になることが示されている。さらに、外集団の成員に対するネガティブな反応を促進するとされている。

オタクが抱くメタステレオタイプも、様々な場面においてオタクたちに影響を与えることが考えられる。例えば、他者に対してオタクであることを開示しようとした際に、メタステレオタイプを連想し、「気持ち悪い」「根暗」だというネガティブなステレオタイプが自分にも付与されるかもしれないと考え、オタクであることを隠蔽することや、趣味の開示行動が妨げられることがあるだろう。自らに近しい人に対してオタク趣味を隠そうとするほど行動に対するコストは高まる。さらに、自らの趣味を開示できないことによって、コミュニティに入る機会を失う可能性があるだろう。これらの反応は、ステレオタイプやメタステレオタイプが、よりネガティブであり、実際のオタク像から乖離していることで生まれるものだと考えられる。

## 1.3 オタクの実像

実際、経験的研究において、オタクがステレオタイプ像と完全に一致しているわけではないことが示されている。菊池 (2000) によって作成された「おたく態度尺度」では、文化の中心層である 20 歳前後の青少年たちが持つ「おたく」ステレオタイプを元に尺度を作成し、それらに合致する態度を「おたく」態度としている。オタク態度尺度では、対人場面能力に着目し

た社会的スキル（KiSS-18）の社交性の部分と正の相関がみられた。つまり、趣味活動に強くコミットし、熱中している人ほど、社会的スキルは欠如していない。

さらに、オタクはコミュニケーション全般が苦手ではないことも、コミュニティを形成していることから示されている。オタクたちは同人サークルを形成し、同人誌やグッズなどを作成し、同人誌即売会で頒布することがある。浅野（2004）は、非社会的であると考えられているオタクコミュニティにおいて作品が生み出されており、消費文化に耽溺し、孤独に作品を愛好しているだけにみえる彼らの中に、力学が働いているという。このように、作品を生み出して即売会で頒布するには、主催としてイベントを企画する能力が必要であることや、同人誌や合同誌を出すためのやりとりなどで、多様な人々と関わってゆく必要がある。

また、オタク女性に限る話となるが、最近では一部のオタク女性が美容へ関心を寄せる姿が散見される。Twitterでは「限界オタク<sup>2)</sup>のコスメ」といった、オタク女性が使用する化粧品に関連したツイートが度々盛り上がり、アニメやマンガ、ゲーム作品などと化粧品メーカーとのコラボ商品が発売されたりすることも増えてきた。さらに、劇団雌猫（2018）による、『だから私はメイクする』という書籍では、オタク女性が化粧を楽しむ姿が描かれている。これは、オタク女性含む、女性たちの実話が元となったエッセイ本である。また、この本が話題となり、ドラマ化したという事実は、オタクは「見た目に気を遣わない」といった人々が持つステレオタイプと相反していたためとも考えられる。

先行研究において、ステレオタイプとオタクとの間に乖離が生じていることが示されてきた。この乖離によって、オタクたちの抱くメタステレオタイプは実像よりネガティブになることが予想されるだろう。しかし、オタクがステレオタイプをメタステレオタイプとしてどの程度受容しているのか、また、オタク自身がステレオタイプと実像との乖離をどのように認識しているかについての検討はこれまでにない。

以上の議論に基づき、本研究では、オタク自身が抱くメタステレオタイプについて聞き取り式調査を用いて、探索的な検討を行うことを目的とした。

## 2 方法

### 2.1 聞き取り調査手続き・調査対象者

2020年2月～5月の期間に筆者のオタクアカウントでの友人、もしくは知人の紹介などによる19～28歳の自身がオタクであると認識している男女7名を対象にインタビューを行った。

オタクをアニメオタク・腐女子・コスプレイヤーなどと細分化して検討することも先行研究において行われてきたが、実際のオタクの中には掛け持ちなどで重なり合うように様々な形態でオタク活動を行っている者も散見される。そのため、今回は広義でのオタクに焦点を当て、細分化は行わずに調査を行うこととする。

2) ネットスラングであり、厳密な定義は存在しないが、自らの世界に浸る自分の姿が痛々しく、また言語力に限界を感じ、見るに堪えないオタクという、卑下するような意味合いで使われている。

また、本研究は、関西学院大学人を対象とする行動学系研究倫理委員会の承認を得て実施された（承認番号：2019-78）。

調査の冒頭において、研究倫理に関わる説明として、回答が匿名化されること、回答によって不利益が生じないことを示し、研究倫理に関する説明に同意される場合には同意書に署名をしてもらい、以降聞き取り調査を行った。また、当時はコロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されていたため、感染防止対策としてインタビュー調査は緊急事態宣言が出ていなかった最初の1件を除き、すべて Skype を使用し、オンライン通話を行う形で実施した。参加にあたって謝礼が支払われた。

さらに、著者自身もオタクであることは事前に協力者に伝えている。インタビュー対象者の属性情報は表1の通り。

表1 インタビュー調査対象者の属性

	年代	性別
A	20代	女性
B	20代	女性
C	20代	女性
D	20代	女性
E	10代	女性
F	20代	男性
G	20代	男性

## 2.2 インタビュー調査項目

本研究に直接関係のない項目は除外して記載する。

- ①オタクとはどのような人だと思うか
- ②オタクは人々からどのように見られていると思うか

## 3 結果

### 3.1 オタクとはどのような人か

前述したように、オタクに対するネガティブなステレオタイプは人々の中に未だ存在している。オタク自身がオタクとはどのような人物であるかを語る際に、それらのステレオタイプがどのように適用されているかを確認するため、「オタクとはどのような人であるか／どのような人だと定義できるか」について尋ねた。結果、一部ではあるが、ネガティブなステレオタイプの定義を用いるオタクの存在を確認することができた。

以下のDさんの語りは、オタクへのネガティブなステレオタイプを使用しながら、オタクとはどんな人であるかを語っている。

D：そもそもオタクの語源自体が…そのなんだったっけ、特定の分野にすごく詳しい人っていう

風な意味があるじゃないですか、だからまず何かの分野に傾倒している人ってことが、オタクだと思っていて…まあよくそのドラマとか漫画とかで、これがオタク…痛いまま描かれるオタクっていうのが、例えば本当に熱く物事を語る早口で物事をしゃべるとかまあそういう結構なんだろうな…悪い言い方をすると、狭い視野かなって言うのはちょっと思っています。(D: 20代女性)

Dさんは、どのような人がオタクであるか述べてから、作品で描かれているオタクの姿についても言及している。オタクは「特定の分野にすごく詳しい人」「何かの分野に傾倒している人」と捉えており、そのうえで、「痛いまま描かれるオタク」の姿として「熱く物事を語る」「早口で物事をしゃべる」「狭い視野」といった、ネガティブな言葉を使うことによって、オタクとはどのような人であるかを語っている。

以下に記すGさんは、「陽キャ」という、外向的な明るいといった言葉を用いることにより、「陽キャ」とオタクとの比較を行っている。

G: そう…ですね、まあアニメとか日本のクールジャパンといかそういうサブカルコンテンツが好きってことなんですけど、ちょっとどこかしら、なんででしょう、オタク…逆説…定義としてはおかしいんですけど、陽キャじゃない…ってイメージの方が強いですね。-なるほど…。

G: なんかその、クラスの第一線で頑張る子たちじゃなくて、ちょっと影の存在…みたいな。(G: 20代男性)

このように、オタクは「影の存在」であり、義務教育・高等教育の教室に生じるカースト制度の下位に位置する存在であることをGさんは語っている。「陽キャじゃない」ことは、対義語である陰キャと呼ばれる存在を示唆しており、ネガティブなステレオタイプに沿った姿のオタクであることが示されている。さらにGさんは、オタクの見た目に関して以下のように語っている。

G: オタクっていったらもっと眼鏡をかけた…Twitter でいう三食チーズ丼顔<sup>3)</sup>って言うか…(中略) ちょっと陰キャっぽいというか、陽キャっぽさが感じられない…子をオタクって呼んでますね。

-男性オタクではそう…?

G: なんか一般化していいかわかんないんですけど、そんな感じっすね。たとえその人がアニメ好きじゃなくても、無趣味な子っているじゃないですか、陰キャの…の子を見ても僕たちはオタクって言うと思うんですよ。なんか雰囲気ちょっと陰キャやなっていう。(G:

3) 眼鏡をかけて冴えない様子の男性が、「三色チーズ丼」を注文している姿を指すネットスラングのこと。

## 20 代男性)

Gさんは「眼鏡をかけた」人を陰キャっぽいとし、陰キャはオタクであると考えていることが示されている。ここから、オタクの中においても、オタクのネガティブなステレオタイプに当てはまる人物を、たとえ「アニメ好きじゃなくても、無趣味な子」だとしてもオタクと捉えていることが確認されたと言える。

一方で、オタクへのネガティブなステレオタイプから連想される言葉を使用せずにオタクを表現した語りも見られた。以下のBさんの語りでは、アニメや漫画などの二次元を愛好する存在をオタクであると表現している。

B：やっぱりちょっと、アニメとかーなんだろう、漫画とかのいわゆる二次元？を主に好きな人を見ると、あ、オタクだなんていうのを認識としてはするかな…なんだろう、濃い意味で言えば、同じその海外のインディーズのバンドを追っかけている人もオタクだとは思いうし、うーん、その、インディーズじゃなくてもバンドをずっと追いかけてる人もオタクだとは思いうけれど…なんだろう、ばってイメージするのは、二次元とか、いわゆる2.5次元とかのジャンル？

ーアニメ・マンガにかかわる…

B：いわゆるサブカルチャー…あでもね、ほんとに一つの作品がずっと好きっていう人も深いオタクだなあって思うし…。(B：20代女性)

Cさんは、対象となるものは特に指定せず、「一つのことに対して夢中になりやすい人」はオタクである、といったイメージを抱いているようであった。

C：そうですね…あの…何か一つのことに対して夢中になりやすい人っていうイメージです。

ーなりやすい人…なんかそのオタクとオタクじゃない人との境界っていうのは、じゃあ一つのこと夢中になるかならないかってお考えってことですか？

C：そうですね、漠然としたイメージかもしれないですけど…そんな感じの感覚でいます。(C：20代女性)

一方で、オタク活動、つまり推しに対する優先順位の高さによってオタクであると定義づけられると話すのはEさんの語りである。

E：なんか……人生の優先順位が…推し(笑)

ーうーん、わかる！

E：…の人はけっこうああそう(オタク)なんかなって思いますね…。(E：10代女性)

Eさんは、人生の優先順位の高い場所に推し<sup>4)</sup>を置いている人、つまり日常生活より優先してオタク活動を行う人がオタクであることを「人生の優先順位が推しの人」として語っている。

以上の発言を踏まえると、オタクが思うオタクの定義には、ステレオタイプが少なからず影響している。加えて、Eさんの語りから見られるように、ステレオタイプが少なからず影響する一方で、ステレオタイプと異なる形でオタクの在り方を語る人の存在も確認できた。

### 3.2 オタクは人々からどのように見られていると思うか

オタクは一般の人々にどのように見られていると思うか、といった質問を行い、オタクが持つメタステレオタイプについて尋ねた。その結果、人々が持つステレオタイプと同様に捉えているが、それらに対して乖離を感じているといった発言などが得られた。

Cさんは先述のようにオタクとはどのような人か、という問いに対してはネガティブなオタクへのステレオタイプに当てはまるような用語を用いずに語っていたが、メタステレオタイプに関する質問に対しては、否定的な言葉を用いていた。以下が彼女の語りである。

—オタクじゃない人たちから、オタクってどういう風にみられているって考えますか？

C：そう…ですねやっぱりちょっと違うと思われていることが多いと思うかな…と思いますね。

—違うっていうのは？

C：やっぱり、なんだろう…わたしも自分自身の性格が全然明るいとかじゃないので…余計にそう思われがちなのかもしれないですけど…やっぱりちょっと暗い…じゃないですけど、陽キャではないなあという感じで思われやすいかなあと思いますね…。ぜんぜん、実際はそんなことないと思うんですけど…。(C：20代女性)

Cさんは、「ちょっと違う」といった言葉で言い辛そうに濁した後、「ちょっと暗い」「陽キャではない」といった言葉で、メタステレオタイプを語っていた。しかし、そういった「ちょっと暗い」「陽キャではない」と「思われやすい」と言った後に、「実際はそんなことない」と否定を行っている。これは、オタクではない人々がオタクに対してネガティブなステレオタイプを持っていると認識しているが、そのステレオタイプが実際のオタクの姿とは違うとCさんが考えていることがわかる。

Fさんは、自身が中学生の時と、大学生の現在では見られ方に相違があると感じているという。さらに、外（オタクではない）の人がどう思っているかではなく、自分が「白い目」で見られているのではないかという恐れがあると語っていた。

---

4) アイドルなどの、いちおしメンバーの略、推しメン、推しとよばれる。

F：中学のときは…そうですね、あの、白い目で見られてるんじゃないかっていう自分の意識があって…外の人はどう思ってるかじゃなくて、自分が、そうみられるんじゃないかっていうイメージ…。あんまりウケはよくないな…マイナスなイメージ…があるなっていうイメージでした。(F：20代男性)

ネガティブな言葉でメタステレオタイプが語られる一方で、オタクではない人が思い描くオタク像と自己とが乖離しているという語りも得られた。Aさんは、オタクではない人が思い浮かべる女性オタクと実際の女性オタクの姿には乖離が生じていると考えている。以下の語りは、それを示すものである。

A：乖離している…普通の人が思い浮かべるオタクっていうのは、どっちかっていうと、めちゃくちゃ雑な例えなんですけど、例えばあんスタ<sup>5)</sup>とか見て、あーかっこいいみたいなことを言ってる像を思い浮かべるのかなって…だから、すごいわかりやすいビジュアルのいいキャラクターがいて、そこに対してかっこいいみたいな、どっちかという夢女子<sup>6)</sup>的発想のオタク？じゃないですけど…(それを)思い浮かべるパターンが多いんじゃないかなって…〇〇くんかっこいい…みたいな、なんか、っていうのがざっくりしたイメージです。(A：20代女性)

Aさんは、女性オタクを例に挙げ、女性オタクであればみな「〇〇くんかっこいい」といった夢女子志向があると思われると感じている。しかし、Aさんは作品のシーン1つ1つに対して、伏線があると考察したり、さまざまな解釈を行ったりすることで、作品に対して愛を注いでいる。彼女は、夢女子のようにキャラクターに対して恋をするといったような作品への関わり方ではないため、女性オタクをそのようなイメージで一括りにして語られることに対して、違和感を持っていると考えられる。また、腐女子やオタクを題材にした映画<sup>7)</sup>を例に挙げ、典型的な描かれ方をしていると語っていた。

A：なんか、あるじゃないですか、常にオタク用語を使って、常にそういう仲間と一緒にいるんで、その、何見てもBLを妄想するみたいな…典型…。  
-なるほど…。

A：ちょっと身近で男同士の人が距離近いだけで興奮するみたいな…。  
-うんうん、なんでも結びつけてしまう人たちみたいな…なるほど…違うよ…って。

A：ああいうイメージなのかなって…オタクって…。(A：20代女性)

5) 『あんさんぶるスターズ!!』というスマホでプレイ可能な男子アイドル育成アプリゲームの略称。

6) 男性キャラ・アイドルに対して実際に恋をしている女性オタクのことを指す。

7) 『オタクに恋は難しい』という2019年に実写で公開された映画のこと。

さらに、女性オタクの一種である、BLを愛好する腐女子が、常に男性同士の関係性を妄想して騒いでいると思われることに対して、このような典型的な理解のされ方にあまり良い印象を抱いていないことがわかる。DさんもBさん同様、同じ映画の例を挙げて「オタクというのはこういう生き物であるっていうのを、ステレオタイプにあてはめて表現されているように感じてしまって、あんまり好きじゃないなって思うので…ちょっと苦痛…なんですね」と語っていた。以下は、Dさんがオタク趣味を世間に広まりつつも「やはり理解されないもの」であると考えていることを示す語りである。

D：オタク趣味がすごくなんか世間に広まっているという印象は…あって…それは本当にこの数年ですごい感じてるんですけど…やっぱりそれを表に出しだからといって、なんか…なんだろう…やっぱり私は結構保守的な考え方をしてしまうので、棲み分けてすごい大事だになっていうふうに考えているので……。

—なるほど…。

D：やっぱり理解できない、相手に理解してもらえないかもしれないっていうリスクを負って、その趣味を言っているのも、どうなのかなというふうに思っているんで、そこらへんは当たり障りのない言葉を言っていければいいかなと現時点では思っています。(D：20代女性)

Dさんの語りに関連して、Bさんは「ディープなオタクの人は服装とかにお金をあんまり使わずに…グッズとかに使うイメージ」があるため、「あまり浮かない格好」をしており「オタクだとかぎ分けられないようにしている」という語りも得られた。

その一方で、Bさんはオタクはネガティブに思われている、と考えることに対して思い込みかもしれないという、以下のような見解を示していた。

B：うん…、あーでも勝手な思い込みの一つではあると思うけど、あんまりこう、うーん、なんといえればいいか、あんまりいいイメージ持たれてないかなっていうのは薄々感じてはいる。けど…。

—その、いいイメージを持たれていないっていうのをもうちょっと分解するとしたら…。

B：なんだろう…すごく言語化しづらいかもしれない…うっすら…。

—うっすらなんかいいイメージを持たれていないんじゃないかってのが根底にあるってことだよな？

B：ほんとに思い込みに近いかもしれない…。

—その思い込みに近いかもしれないって思うのは…？どうして？

B：なんか…最近だと結構情報番組でも、そういうなんか割と肯定的な意見を聞くというか…なんかほんとに、具体的な例を出すと…この前『マツコの知らない世界』っていうのでコスプレイヤーの人が紹介されてたけど…。

—あ、何人か紹介されていたけど鬼滅<sup>8)</sup>コス…とか旅館のやつ<sup>9)</sup>だったよね。

B：それに対しての意見とかを…それに対してのコメントをした時も、クオリティがすごい、みたいな話とか…わりと肯定的な意見を見たりして…まああとはなんだろう…そういうオタク…関連…例えばコスプレのどこかで集まって…っていうのに対してもそこまでこう、なんだろう…まあテレビだからそんなに言わないかもしれないけど、その…わりと肯定的な…にぎやかです…みたいな…賑わってますみたいな…感じのコメントを見ることが多いから、そこまで私がそう、なんていうんだろう、怯えているほど…否定的な人がそこまでいないのかなあって…あとイメージが変わってきているのかなっていうのがあって……。(中略) (B：20代女性)

Bさんは、「あまりよいイメージを持たれてない」と語っているが、メディアでオタク趣味について取り上げられていることを例に挙げ、肯定的な見方をされているのを見て、それは「思い込みに近いかもしれない…」と自らのメタステレオタイプについて疑問に感じているようであった。

E：そう、そうですね…気持ち悪いって言われることに関しては、なんていうんですか、典型的、オタクステレオタイプっていうのがあるじゃないですか…その根強さ…からきてる感じかなって思うけど…今はそんなに…自分がオタクじゃない子から何かされた…とこかはないし…気持ち悪いっていうのは、自分で自分のことそう思ってるっていうのも…。(E：10代女性)

Eさんは、「気持ち悪い」と言われることに関しては、根強いステレオタイプがあると考えているが、「今はそんなに」と現在の自らの状況について「オタクじゃない子から何かされた…」経験はないと語る。

#### 4 考察

本研究では、オタク自身が抱くメタステレオタイプについて探索的に検討することを目的とし、オタクであると自認している10～20代の男女にインタビューを行い検討してきた。以下では、オタクがステレオタイプをメタステレオタイプとしてどの程度受容しているのか、そしてステレオタイプと実像との乖離をどのように認識しているのかについて考察を行う。

8) 『鬼滅の刃』という週刊少年ジャンプで連載していたバトルファンタジー。連載終了後の今も世代問わず絶大な人気を誇っている。

9) コスプレ客に撮影スタジオとして客室を提供している旅館。

#### 4.1 オタクとステレオタイプ・メタステレオタイプの関係

インタビュー調査により、オタクたちは人々からネガティブなステレオタイプを向けられていると認識していることが示唆された。「オタクとはこのような人」を語る際、ネガティブなステレオタイプに影響されているものもあれば、生活の中を占める度合いでオタクを語るものも見られた。前者においては、オタクがネガティブな言葉によって語られていることを理解しており、自らの属性について語る際に使用している点で、ネガティブなステレオタイプをある程度受容していると考えられる。

また、オタクはネガティブなステレオタイプを受容することにより、それらをメタステレオタイプとして抱いていた。オタクたちが「オタクとはこのような人である」と語る場合と比較して、メタステレオタイプを語る際には「ちょっと暗い」「陽キャではない」といった、よりネガティブな言葉を用いていた。また、自分たちが「怯えすぎている」ため、特別何かしらの偏見・差別の目にさらされていなくとも、ネガティブに思われていると考えすぎてしまっているという B さんの語りも見られた。これらは、メタステレオタイプはネガティブなものに偏りやすいという Vorauer (1998) の知見とも一致する。オタクたちは、自分たちに向けられているネガティブなステレオタイプをより強化し、メタステレオタイプを保持していると考えられる。

#### 4.2 ステレオタイプと実像の乖離

また、オタクたちには、オタクへのステレオタイプと自己に乖離があり、乖離した姿と自分を重ねて見られているのではないかといった認識もみられた。ステレオタイプ、そしてメタステレオタイプにおいて、実際のオタクの姿と一部異なる姿が想像されるということは、オタクというカテゴリーが自分に適用された場合に実際の自己への理解が曲解されることである。このことに関して、A さんが語った、腐女子へ向けられるステレオタイプと関連する事例が存在する。ネガティブなステレオタイプを想像しているからこそ、名藤 (2014) によれば、一般メディアの中に、常にある一定の方向にステレオタイプ化された「腐女子像」があり、それらによって家族からの目線に苦しめられている女性オタクたちがいるという。さらに、腐女子たちは、自らの存在を卑下し、腐女子としての自らを隠す行動をとることが報告されている (岡部：2008)。この事例は、腐女子だけでなく、他のオタクにも一部重なる部分があるといえるだろう。実際、B さんによって「オタクであることを知られたくない」ため服装に気を遣っているといった語りも見られていた。

#### 4.3 本研究の課題と展望

本研究は、オタクがステレオタイプをメタステレオタイプとしてどの程度受容しているのか、そしてステレオタイプと実像との乖離をどのように認識しているのかについて探索的な検討を行ってきた。しかし、7名というサンプルサイズ、腐女子、夢女子などのオタク属性や好みのジャンルの偏りがあること、また、比較的若い世代に偏っているため、今後は様々な属性

や、中年層のオタクも対象に含め検討していく必要があるだろう。

また、オタクが抱くメタステレオタイプの記述がやや抽象的であるため、整理してより具体的に分類していく必要がある。そして、岡部（2008）が示していたように、ネガティブなステレオタイプが腐女子のみならず、オタク自身の地位の認知にも影響を与え、隠蔽行動に繋がっている可能性もあるだろう。今後、ネガティブなステレオタイプがどのような点において、オタクの思考や行動に影響を与えているのかより詳細に検討することが求められる。

#### 【参考文献】

- 浅野智彦 2004, 若者の気分 趣味縁からはじまる社会参加, 岩波書店
- 東園子・岡井崇之・小林義寛・玉川博章・辻泉・名藤多香子 2007, それぞれのファン研究：I am a fan, 風塵社
- 岡部大介 2008, 腐女子のアイデンティティ・ゲーム, 認知科学 15(4), 671-681.
- 上瀬由美子 2002, ステレオタイプの社会心理学－偏見の解消に向けて－ サイエンス社
- 北村英也・唐沢稜 2019, 偏見や差別はなぜ起こる？ 心理メカニズムの解明と現象の分析, ちとせプレス
- 劇団雌猫 2018, だから私はメイクする, 悪友たちの美意識調査, 柏書房
- 高田治樹・菊地学・尹成秀 2020, オタクはどのような印象をもたれているのか？－オタクカテゴリと印象との相互関連性の検討－, 目白大学心理学研究, 16, 1-13.
- 菊池聡 2000, 「おたく」ステレオタイプと社会的スキルに関する分析, 信州大学人文科学論集, 人間情報科学編, 34, 63-77.
- 菊池聡 2008, 「おたく」ステレオタイプの変遷と秋葉原ブランド, 地域ブランド研究, 4, 47-78.
- 宮台真司 2014, オタク的想像力のリミット, 筑摩書房.
- Lippman, W. 1922, *Public Opinion*. New York: Macmillan.
- Vorauer, J. D., Main, K. J., & O'Connell, G. B. 1998, *How do individuals expect to be viewed by members of lower status group? Content and implications of meta-stereotypes*. *Journal of Personality and Social Psychology*, 75, 917-937.